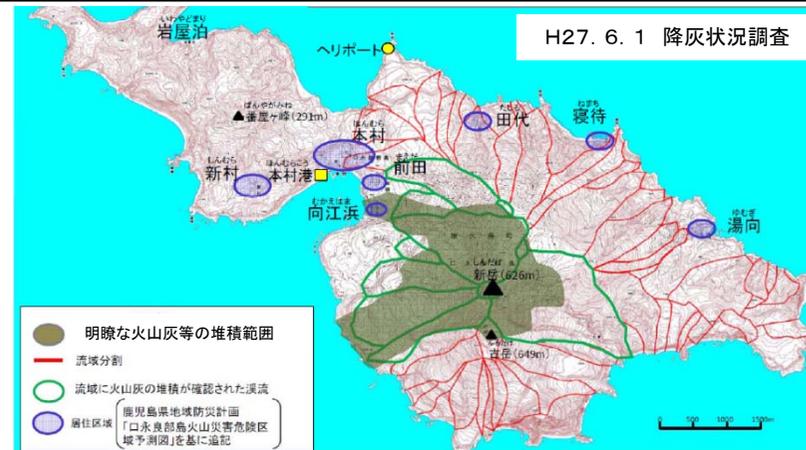


- 6月18日午後、20日ぶりの再噴火に関して、TEC-DOCTOR(京都大学井口教授)と九州整備局職員が防災ヘリコプター「はるかぜ号」による現地調査を実施
- 6月20日、噴出物は前回(5/29)の噴火より少なく、斜面の降灰範囲等に大きな変化は見られない
- 6月21日、火山灰等の影響が確認された溪流調査では、降雨による土砂移動はあるが変状は見られない



▲ 再噴火した火山の状況



▲ 調査の結果、降灰範囲に大きな変化はない



▲ TEC-DOCTOR(京都大学井口教授)によるヘリ調査



▲ 火山の噴火状況を調査状況する整備局職員